

所要資金の額及び調達方法	
1 所要資金の算出根拠	
(1)	仕入（見込み）
	① 酒類の年間仕入額 <span style="float: right;">9,360 千円</span>
	② 酒類の月間仕入額 (①×1/12) <span style="float: right;">780 千円</span>
	③ 在庫 (②×1/2) <span style="float: right;">390 千円</span>
	④ 最初の月の所要資金 (②+③) <span style="float: right;">1,170 千円</span>
	※ 酒類の商品回転率を月間1回転としました。最初の月の所要資金として、月間仕入金額に在庫分として1/2月分を加算しました。
(2)	設備
	酒類の販売のため、新たに冷蔵設備を設置します。
	・ 冷蔵設備（工事費込） <span style="float: right;">3,000 千円</span>
	<span style="float: right;">千円</span>
	<span style="float: right;">千円</span>
(3)	予備費
	酒類販売の所要資金として、5,000千円を充当しますが、そのうち最初の所要資金として、4,170千円を必要とし、およそ830千円を酒類販売に係る予備費とします。
2 所有資金	
(1)	当座預金 <span style="float: right;">10,000 千円</span>
(2)	普通預金 <span style="float: right;">2,000 千円</span>
(3)	定期預金 <span style="float: right;">5,000 千円</span>
(4)	<span style="float: right;">千円</span>
	※ 酒類販売に要する資金として、当座預金から5,000千円を充当します。
3	以上のおり、自己資金で十分と考えますが、更なる資金が必要となった場合には、別添「融資証明書」記載のおり融資が受けられます。

※ 上記は一例であり、事業計画にあわせて作成してください。

（例）所要資金の調達方法についての書類

1 自己資金の場合

「資金繰表」、「資金捻出の根拠説明書」、「残高証明書」又は「預金通帳等の写し（預金者名及び残高が分かるもの）」

2 融資による場合

(1) 金融機関からの融資

「借入をする金融機関の融資証明書」

(2) 金融機関以外からの融資

「融資者の原資内容を証明する書類」